鳥　海　讃　歌

ＧＴＨ通信　第５６号　令和３年１２月１日（水）
校長室より

「学校」と「社会」をつなぐ

令和３年も早いもので、残すところ１ヶ月となりました。９日（木）から期末考査、２１日（火）には第２学期終業式を迎えます。今年はコロナ禍での「新しい生活様式」を意識した教育活動となりました。令和４年には「新しい」が「当たり前の生活様式」となり、「学校」のあり方もさらに変化していくと思います。同時に、仁賀保高校に対する地域の期待がますます大きくなると予想されます。

令和３年度は、にかほ市のバックアップをいただき、４月１日を皮切りに２ヶ月に１回の割合で、生徒会や部活動など、生徒の活躍を広く市民に公開していただきました。本日付の広報では、これまで以上に仁賀保高校の特集を組んでいただきました。既に御覧いただいた方もいるとは思いますが、今日をきっかけに、本校はさらに「社会」に開かれた「学校」を目標にして、新たなアイデアを取り入れながら活性化していきます。そのためにも、生徒のみなさんが持つ、若者の感性と行動力に期待しています。

この場を借りて、第４３期生である３年生にあらためて感謝いたします。令和元年度から始まった「総合的な探究の時間」ですが、仁賀保高校では、これまで「いちじく、番楽、ジオパーク」という３つの地域資源を学びの軸足にして、地域を知り、地域で活躍している知恵者を「師匠」に、新たな付加価値を見いだす取組を行ってきました。この学びの根底には、「県立高校」として、秋田県教育委員会の指導や助言を踏まえ、本荘由利地域の風土を念頭に置いた、「ふるさと教育」の動機づけがあります。

３年生全員がコロナ禍のなかで、自らの進路達成の準備と並行しながら、８月上旬にはフロムプロジェクトのプレゼンテーションで、１１月１８日、２５日には「にかほ市よい街プロジェクト」の発表会で、にかほ市の活性化に向けた堂々たる提案がありました。いずれもメディアの力を駆使し、オンラインで公開しました。また、アーカイブで振り返ることも可能です。

２５日は、来賓の方々から貴重な御意見や感想をいただきました。仁賀保高校の生徒と学校活性化のみならず、地域社会にとっても、この上ないヒントをいただきました。まるで宝石箱のような発表会でした。

佐藤学さんからは、「表現力を磨く方法」と「相手に共感すること」を教えていただきました。今後は、「エレベーターピッチ（言いたいことを15秒から30秒で伝える手法）」で、相手に伝える訓練をしましょう。

國重咲季さんからは、「クリティカルシンキング（批判的思考）」の大切さを学びました。身の周りの「当たり前」に疑問を持ち、「はてなのマーク？」を意識して考えましょう。

佐藤賢治郎さんからは、助けてもらう事は決して恥ずかしいことではない。「トライアル＆エラー」を合い言葉にどんどん失敗しようとエールを送っていただきました。

３人のコメントは、それぞれの人生で経験した「体験知」から湧き上がってきた「生きた言葉」です。生徒のみなさんが持っている「経験値」に、アドバイスを取り入れて、地域活性化の方策を考えてゆきましょう。

学校は勉強する場です。学んだ知識や技能が社会の役に立つには、学ぶ人間の意識改革と教える人間の心意気が欠かせません。学校と社会をつなぐ、スペシャルな「仁高の教育」をさらに進めてゆきたいものです。

- ★　アイコンタクト（ｉcon t act３）を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！
- ★　メモをとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。
- ★　意識力＝意思・意志（瞬間）＋気力（持続）です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたことを継続してやり抜きましょう。
- ★　ＧＴＨは、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。
- ★　「自己有用感」を高めてください。そのためにあなたは何に挑戦しますか？
  自分が誰かの役にたつためには、感謝の心と自己肯定感を持つことが大切です！
- ★　ＮＰＴは仁賀保高校プログラミング思考の略称です。ＮＰＴを意識して、学びを活性化しましょう。プログラミングは、Trial＆Errorで進めましょう！
- ★　「自分事」「当事者意識」を持って取り組む仁高生に変身しましょう！